

2025年度 春学期・夏学期開講

科学技術政策特論

第3回講義

「我が国の宇宙政策について」 ～宇宙活動の自立性の維持・強化に向けて～

内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 審議官

渡邊 淳 氏

宇宙は、その起源や構造・進化等の理解を進め、新たな知見を獲得する対象であり、また、宇宙ステーションから月面、さらにその先へと人類の活動領域を拡大するフロンティアでもあります。宇宙は、それらの普遍的な意義・価値を持つ一方、最近では地球を周回する人工衛星等が、地上のシステムと一体となって、測位や気象データなどのサービスを提供し、地球上の様々な課題の解決に貢献するとともに、豊かな経済・社会活動のインフラにもなっています。

このように宇宙開発利用の重要性が増している現在において、宇宙を取り巻く最近の動向を、民間の活動も含め、紹介するとともに、我が国が戦後構築してきた宇宙活動の自立性を維持・強化し、宇宙先進国として世界をリードしていくため、我が国としてどのような政策を打ち出し、実施しているのか、解説します。

日時：4月25日(金)

5講目 16:30-18:00

受講方法：

オープンホールによる対面授業

渡邊 淳先生

埼玉県出身。東京工業大学卒業、同大学大学院理工学研究科修士課程修了(金属工学専攻)。平成6年科学技術庁入庁。

宇宙ステーション、原子炉規制、高校教育・中高一貫教育、地方教育(岩手県教委出向)、海洋科学技術、防災科学技術、行政評価、医療イノベーション、経済再生等に関する業務に従事。

文部科学省研究振興局ゲノム研究企画調整官、内閣官房内閣参事官、文部科学省科学技術・学術政策局研究開発基盤課長、同省研究振興局基礎・基盤研究課長、内閣府宇宙開発戦略推進事務局参事官等を経て、令和5年10月より現職。

担当：工学系教育研究センター 小崎 完教授